

熊本大学附属図書館

東光原 NewsLetter

No.46 (2023.2)

図書館公認キャラクター



くまぼん

CONTENTS

>> 第15回 熊本大学東光原文学賞

受賞作決定 1p

>> 第15回 熊本大学東光原文学賞

受賞者インタビュー 2-3p

>> 第15回 熊本大学東光原文学賞

表彰式開催 4p

>> オンライン公開：貴重資料展講演会 4p

>> 図書館のできごと 4p

15th

anniversary

Since 2008

東光原文学賞

受賞作決定

学長賞

「紡がれし者たち」

PN こやこや

附属図書館長賞

「妄執…いつも、どこまで」

PN いのうえ たにし

「への憧憬」

植山 和哉

「まことの海」

中村 優吾

第15回 熊本大学東光原文学賞

受賞者インタビュー

学長賞

「紡がれし者たち」

P.N. こやこや

—質問1) 受賞作へ込めた思いをお願いします。

読んでいた小説に憂理(ゆうり)という少女が出てきて、「理を憂うっていい名前だなあ」と思い、同名のヒロインが出てくる話を書こうと思いました。そこで、ゆうり→きゆうり→河童という安直な発想に至り、河童をテーマにした作品を書こうと思い書き始めました。もし読んで頂けたら、教室の真ん中で楽しそうにしてるあの子ども実は心の中で孤独を抱えてたりするよね、みたいなことが伝われば幸いです。

—質問2) 小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦労したことなどを教えてください。

ちゃんとした小説を書いたのは初めてで、誰にも言ってなかったのが、1人でこの文章で伝わるか見直す作業が苦痛でした。時々自分が納得できる文章が書けた時は嬉しかったです。

—質問3) これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスをお願いします。

自分の何が評価されるのかは自分では分からないと思うので迷っているなら書いたほうが良いと思います。12000字から応募できるので1日原稿用紙4枚書いたら1週間とちょっとで完成できます。副賞も豪華ですし、新しい何かを始めるには絶好の機会なのではないでしょうか。

—質問4) あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

恩田陸、上橋菜穂子、重松清、村田沙耶香などが好きです。2022年に読んだ本では逢坂冬馬の「同志少女よ、敵を撃て」が一番面白かったです。

—質問5) その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

何かを生み出すことは自分の才能の無さと向き合うことなので楽しいと同時に辛い作業でもありますが、私達はまだ若いしそんな面倒なこと考えずに自分が良いと思ったことをどんどん表現した方がいいんだろうと今回受賞して思いました。これからも日常の隙間でささやかに作品を作っていきたいです。

附属図書館長賞

「妄執:いつも、どこまで」 P.N. いのうえ たにし

—質問1) 受賞作へ込めた思いをお願いします。

ある意味では、いつだってそうだったのかもしれませんが、私たちは今、なんとも形容しがたい時代に生きています。お先真っ暗だ！と嘆けば叱られますし、未来は明るい！と無思考で叫べば笑われます。その中において、私たちがどう生きるか、答えがあるのかさえ分かりませんが、とにかく考え続けていきたい。そんな思いです。

—質問2) 小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦労したことなどを教えてください。

自分は基本的に、小説のプロットは最初から決めずに、書きながら考えます。起点と、ある程度の終点だけが自分の中にあり、その間に必要なものを考えながら繋いでいくという作業です。こう言ってしまうとちょっとカッコいいのですが、しかし、お恥ずかしながら、結構失敗します。ただただ、成功してくれ！と祈りながら書いています。

—質問3) これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスをお願いします。

あまり偉そうなことは言えませんが、まずは、たくさん読んで、観て、聞いて、それらを吸収して、それから書くことが大事です。「オリジナリティ」という言葉に惑わされず、土壌を耕すことから始めるべきだと思っています。

—質問4) あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

「侍」遠藤周作、「金閣寺」三島由紀夫、「砂の女」阿部公房、「草枕」夏目漱石、「あゝ、荒野」寺山修司、「終の住処」磯崎憲一郎、「神の子もたちはみな踊る」村上春樹、「インザ・ミソスープ」村上龍、「百年の祈り」ガルシア・マルケス、「わたしたちが孤児だったころ」カズオ・イシグロ、「かもめ」チェーホフ(戯曲)、「欲望という名の電車」テネシー・ウィリアムズ(戯曲)、「DEAD MAN」ジム・ジャームッシュ(映画)、「サクリファイス」アンドレ・タルコフスキー(映画)、「海の上のピアニスト」ジュゼッペ・トルナトーレ(映画)、「ぼっち・ざ・ろっく」原作・はまじあき(アニメ)

—質問5) その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

特にないです。

第15回熊本大学東光原文学賞の受賞者4名の方々に、「作品へ込めた思い」や「小説を生み出す過程について」、今後文学賞に応募したいと考えている本学学生の皆さんへの「アドバイス」など、さまざまなお話を伺いました！ 表彰式の模様は次ページに掲載しています。こちら是非ご覧ください。

附属図書館長賞

「Lへの憧憬」

植山 和哉

—質問1) 受賞作へ込めた思いをお願いします。

こんな未来がきたらおもしろいなど空想したことを文章にしてみました。

—質問2) 小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦労したことなどを教えてください。

2度目に読んだ際に、1度目とはとらえ方が異なるセリフなどを随所に入れました。

—質問3) これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスをお願いします。

過去の受賞作品と比べても自分は筆力がないと思います。しかしプロットを工夫することで面白くはできると思います。漫画で例えるなら、絵は下手だけど物語は楽しんでもらえるようにしました。やりようはあります。

—質問4) あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

石田衣良、フィリップ・K・ディック

—質問5) その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

陽キャは陽キャの大学の楽しみ方があり、陰キャは陰キャの大学の遊び方がある。



附属図書館長賞

「まことの海」

中村 優吾

—質問1) 受賞作へ込めた思いをお願いします。

若いうちに「死」と誠実に向き合っておくことで、今後の人生における後悔を少しでも減らしたいと思い執筆しました。この作品が、誰かの心の海を静かに震わせることができたなら作者として嬉しい限りです。

—質問2) 小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦労したことなどを教えてください。

半年以上かけて構想を練ったので、アイデアを散りばめていく作業は楽しかったです。また、漢字で書けるところにあえてひらがなを用いることで複数の意味を持たせるなど、小説でしかできない表現方法を探るのも面白かったです。一方、テーマが「死」だったため、書き進めるのが苦しいときもありました。

—質問3) これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスをお願いします。

応募の前に、誰かに意見をもらうことは重要だと思います。自分では気づかない矛盾点や閃きが得られるからです。宣伝になってしまいますが、僕は「セピア」という学内の文芸サークルに所属しており、刺激をもらっています。

—質問4) あなたが好きな作家またはお薦めの作品を教えてください。

ノルウェイの森(村上春樹)、カラフル・アーモンド入りチョコレートのワルツ(森絵都)、その日のまにに・青い鳥(重松清)
何もかも憂鬱な夜に(中村文則)、明日の記憶(荻原浩)、ガソリン生活(伊坂幸太郎)、滅びの前のシャングリラ(凧良ゆう)
ぼくらは夜にしか会わなかった(市川拓司)

—質問5) その他、伝えたい事やメッセージなどがありましたらお願いします。

僕は大学生になってから小説を書き始めました。何かを始めるのに遅すぎるということではなくて、気持ちが傾いた時すべてが絶好の機会だと思います。書いてみたいと少しでも思ったら、気楽に始めてみるとういかなと思います。



第15回 熊本大学 東光原文学賞 表彰式開催 (R5.1.13)



「熊本大学 東光原文学賞」は、熊大生の言語力向上と創造性豊かな学生の育成、さらに地域社会における文学・文化活動の中核となる人材輩出等を目的に平成20年度に創設され、今年度で15回目を迎えました。熊本大学の前身、旧制五高では夏目漱石や小泉八雲が教鞭をとっており、五高卒業生には、寺田寅彦氏、犬養孝氏、下村湖人氏、木下順二氏、中野孝次氏らが名を連ね、数多くの文化人を輩出しています。そんな先人に続けという思いもこめられた文学賞です。

今年、第15回を記念し、「大賞」を「**学長賞**」、「**優秀賞**」を「**附属図書館長賞**」としました。本年度は17篇の応募があり、審査の結果、学長賞1篇、附属図書館長賞3篇を選出、1/13(金)に中央館ラーニング commons にて表彰式を執り行いました。

選考委員の先生方からは「応募作は力作揃いだった」との講評をいただき、晴れやかな式となりました。受賞者のみなさん、本当におめでとうございます。惜しくも受賞を逃したみなさん、ご応募ありがとうございました。次回作も期待しています。

受賞作品は“熊本大学東光原文学賞作品集”として3月に刊行予定です。図書館内にて無料配布しますので、ぜひ手に取ってご覧ください。また図書館ホームページでも公開(PDF)していますので、過去の作品集をいつでも読むことができます。

さあ、次はあなたも?ご応募をお待ちしております。



図書館のできごと (2022.10-2023.1)

(9/27)-12/26	ロビー展示「第1回学生選書祭」
(9/27)-11/29	第2回ロビーミニ展示「創作の秋! 小説入門特集」
10/1-10/13	第2回 学生選書員 募集 (選書期間: 10/14-11/14)
10/13-10/20	文献検索講習会の開催 (オンライン)
10/14	【熊本大学東光原文学賞】第15回記念特設サイトを公開
10/20	第2回附属図書館運営委員会(オンライン)
10/24-11/29	ロビー展示「令和4年度貴重資料展特集」
11/3-11/5	第37回貴重資料展「悲劇の藩主 細川光尚」開催
11/3	公開講演会:第16回永青文庫セミナー「細川光尚とその時代—天草島原一揆・寛永大飢饉・御国返上—」
11/9,11/16	保健学科リサーチトレーニング(医学系分館)
11/21	黒髪キャンパス防災・消防訓練
11/29-1月下旬	第3回ロビーミニ展示「芥川賞・直木賞受賞作特集」
12/1	文献管理ソフト講習会①「EndNote Online」(オンライン)
12/5~	学生主役の企画展 第11弾「江戸時代の国際ターミナル:「鎖国」下の長崎」
12/7	文献管理ソフト講習会②「Mendeley」(オンライン)
12/7-2/17	薬学部E棟(図書館)の外壁、玄関、トイレの改修工事
12/12-12/16	後期 図書館TAIによるオンラインセミナー (オンライン)
12/14-12/21	第3回附属図書館運営委員会(書面会議)
1/5-2月下旬	第4回ロビーミニ展示「多目的ラウンジで多文化理解」
1/11-2月下旬	ロビー展示「理事・副学長のおすすめの本」
1/13	第15回「熊本大学東光原文学賞」受賞作品発表&表彰式
1/23-1/30	NACISCAT/ILLシステム停止

オンライン公開:貴重資料展講演会

令和4年11月3日(木)に開催された
公開講演会:第16回永青文庫セミナーの動画が、
熊大公式YouTubeチャンネルにて公開されました。



「細川光尚とその時代
—天草島原一揆・寛永大飢饉・御国返上—」
講師: 稲葉継陽 熊本大学永青文庫研究センター長 教授



元和5年(1619)、明君・細川忠利の嫡男に生まれ、藩主となることを約束されて江戸で育った光尚は、寛永14年(1637)、天草・島原キリシタン一揆を討つため、初めて肥後に下る。一揆への対応、父の急死、寛永大飢饉への対処、ポルトガル船来航に対応するための天草在番や長崎出兵、熊本藩の財政破綻と百姓経営の危機。持病の痔ろうを抱えながら、17世紀最大の危機に挑む光尚の生涯を映し出す。

共催: 熊本大学附属図書館・熊本大学永青文庫研究センター
協力: 公益財団法人永青文庫